

江文



澁江

—第15号—

目次

同窓会員の皆様に.....

会長 世良錬次..... 2

澁江15号の刊行によせて

理事長 藤田敬三..... 3

特色・個性と本学

学長 玉置保..... 4

大阪経済大学学園だより..... 5

寄附行為の変更ほか・学園人事
 学生部・実態調査からみた学生生活
 就職部・就職戦線只今前哨戦
 図書館・全館冷暖房工事も完了
 入試・55年度入試要項について

同窓会本部だより.....10

総会はレストランパレスで

同窓会支部だより.....12

鳥取県支部が新しく誕生
 東京支部・東海支部・京都支部・西宮支部
 和歌山支部・東播磨支部・姫路支部
 岡山支部・十三会総会・福井支部(別稿)
 支部総会に出席して…副会長 磯野齊…16

私と黒正イズム①.....6回 伊藤音七郎…17

渡辺敬司先生を悼む.....18

ゼミ短信.....19

井上ゼミ・(清寿会)・池野ゼミ・稲原ゼミ
 上岡ゼミ・喜田ゼミ・(喜楽会)・倉辻ゼミ
 (倉春会)・田中ゼミ・建林ゼミOB会
 玉井ゼミ・中川ゼミ・原田ゼミ・藤原ゼミ
 松原ゼミ・松村ゼミ

学生寮とオリエンテーション.....22

北から南から.....23

同窓生短信集
 編集後記.....27

同窓会員の皆様に

同窓会会長

世良錬次

全国各地で活躍の同窓生の皆さん、いかがお過ごしでしょうか。母校の現況や同窓会の活躍などをお知らせする唯一の絆である同窓会の機関誌「澁江」も、いつの間にか十五号(通算二十二号)になりました。今回もいろいろと制約があり、皆さん方の十分なご期待にそえないとは思いますが、かつて皆さん方が学ばれました大阪経済大学のほのかな香りだけでも、その時代、その年代によって、かきわけていただければと、ここに届けたいと思います。

光陰矢の如しのことわざ通り、昭和五十四年(一九七九)も、後二カ月余を残すのみになりました。そして、また、一年一度の楽しい全国の同窓生の集である同窓会総会(十一月三日)が、本年も、昨年通り、大阪、梅田の阪急ビル十二階、レストランパレスで開催されるまで、後一カ月

になりました。現在、総会特別委員会の方々がいろいろと企画をいたしておられますのでお楽しみにお待ち下さるとともに、当日はぜひご参集下さいませようお待ちいたしております。

さて、朝鮮戦争による神武景気、ベトナム動乱による若戸景気を背景にしたわが国の高度経済成長は、オイルショックというものを一つの契機として、それまでに内包されていた社会的、経済的諸悪条件が表面化し、低速あるいは減速経済成長という美名の不況期に入って早や六年を経過してしまいました。そして、ある一部の業種、あるいは、ほんの握りの企業群を除いては、この不況風にあおられて、その病状の軽重は別として、病床に伏していることは事実でしょう。産業界はもちろん政府も、どのようにしてこの病床に伏している患者を救済すればよいか、

また、患者は病人なりに一日も早く回復する諸努力をしていることは周知の通りです。

仮に、それら諸努力によって快方に向ったとしても、かつてわれわれが味わった高度経済成長期に味わった美酒は味えないということを知りながら、一日も早く明るい笑顔で語り合える日が来ることを願っているというのが本音でしょう。

さらに、今日、ドル保有国として世界第二位のしあがった、にわか成金が今後どのような経済的行動をとるかに注目が注目していることも周知の通りです。

したがって、われわれは、一人一人がわが国の経済のあり方について反省しなければならぬ状況におかれていることは事実でしょう。今からでも、もう一度世界の中におかれているわが国の経済を再認識し、西

澁江十五号の刊行によせて

大阪経済大学理事長 藤田敬三

本年もなかなかの暑気でしたが、同窓諸兄にはますますご健勝にて、ご活躍のこととお慶び申し上げます。

さて、澁江十五号の発行に際し、例により学園の近況ご報告かたがた、お願いやご挨拶をさせていただきます。

本学の施設等における当面の不備は、一般の図書閲覧室その他の冷房化、コンピュータの導入等によって、まず一息といったところでありますが、時代の要求にこたえての本学のあり方全体が、これで良いわけでは決してありません。否、五十周年もますます迫りつつある昨今の本学としては、この機会に一段の質的飛躍と、それにとりまう量的拡充なしには、その存立の意義さえ疑わしくなる状況にあります。

殊に、最近における私学界の、量から質への転換の声は急激に揚がり、国内外の大学に対する現代的要求にこたえて、文教当局の対応も次第に強化されつつある今日、事態は極めて重大であります。

幸い、これに対する我学園における関心は、日を追って高まり、本学運営に関する全面的再検討の姿勢をもって、各般の研究委員会等をもち、慎重審議を重ねながら、その結論を急いでおります。やがて、近い将来には、同窓諸氏をはじめ、関係各方面のご賛同をえて、計画遂行に際し、倍旧のご熱意をもってのご支援をいただかねばならぬ仕義とあいなるものと存じますので、その節はなにとぞよろしくお願い申し上げます。

なお、かねてより格別のごやっかいにいたりしております、就職関係の懇談会は、本年は岡山支部のお世話により、盛会をもち多大の成果を取れました。改めて厚くお礼申し上げます。以上、ご挨拶かたがたお願いまで。



特色・個性と本学

||今こそ健学精神を生かして||

大阪経済大学学長 玉置 保

本日(十月一日)就職シーズンに入ると同時に、国大協にはじまる第二期共通一次テストの実施を目前に、わが国の受験体制は、いよいよ過熱してまいりました。この受験体制は、平等主義・公正主義の立場から是とするもの、競争主義にもとづく大学の序列化と独自の喪失から否とするものなど、賛否両論に分れていますが、私は少なくとも客観的テストによる得点能力の偏重、大学の序列化および独自の喪失の非難は、免れないように思います。国公立の大学がいやおうなしにこの体制に組み入れられることは、やむをえないとしても、私学が無批判にこの体制下に入りますと、わが国の官尊民卑、私立は国立の補完物という長年の風潮により、学校序列では、いきおい下位に立たざるをえないので不利になります。また私学には、それぞれ建学の精神および独自の個性がありますから、これらを失えば、私学はその存立の意義を失うことになり、今日ほど私学の建学の精神および存立の独自性が、重大な意義を有することを痛感せざるをえない時はないと考えます。

敬意を表する次第であります。しかし現在のような激動期に際して、教育・研究も日進月歩でなければならず、単に伝統の上にあぐらを組むことは許されません。私、大学代表を拝命して既に数年、伝統は守ってきたつもりですが、半面いさか甘えてきたのではないかと恥じています。文部当局も、量的拡充より質的充実した大学、建学精神をふまえた特色ある大学を要望し、経常費二分の一を目標とした国庫助成も、今後はこの方面にむしろ重点がおかれるようになっております。

これに対処するため、教授会代表と学内理事で、非公式であります、「大学の将来を語る会」を結成、今春来数回開催して、討議・検討してまいりました。特色ある学部・学科の増設、学生の実質減や定員増、マスプロ教育解消のための教員の大増員、いわゆる世界的時代にこたえ国際場裡で活躍できる人材の養成や留学生制度導入のためのカリキュラムの検討、入試制度改革の一環としての無試験入学制度の導入、社会に対する大学開放のための公開講座や生涯教育の実施問題など、自由な学園という名に恥じず、百花斉放・百家争鳴の観がありますが、融和の学園でなければならぬのですから、いずれ明確な基本方針が樹立されると思っております。

次に現代はオートメーションやコンピュータの時代、すなわち機械化の時代であることとは否定できないと思っておりますが、社会が機械化されればされるほど、社会は機械化されない人間すなわち個性ある人間を求めようになると信じます。法律・経済いずれの分野で

も、その理念が個人本位から団体本位に移行したことは否定できませんが、全体主義や協同意識の下に、個人を集団組織の中に埋没し、自由なき没入的存在にすることは危険で、ワイマール憲法以後、ドイツナチスの崩壊の歴史がこのことを如実に物語っています。ワイマール憲法と異なり、わが国憲法ははじめ実定法が、全体と個人の調和を計っていることも注意しなければならぬと思っております。このことを企業を含めて私的集団に置きかえても同じことで、個人、したがって個性が没却された集団は、結局、少数独裁者の支配する暴力的集団と化すおそれがありますから、個人したがって個性は重視されるべきであります。

現代では、企業自体が個性ある新入社員を要望していると、数度の同窓会との就職懇談会でおうかがいいたしました。個性は就職の重要な条件になっているようであり、殊に二十世紀にかなる社会的指導的役割を果たさなければならない学生諸君にとって、個性はその生命とさえいえます。私は、学問にしろ、芸術にしろ、体育にしろ、主体性をもってエトワスを求めるようにと、言っています。これは、結局、自らの行動について、思索し、意義を發見し、個性をつよめてほしいからであります。おとなしい経大生から、個性ある経大生に脱皮して欲しいものです。

以上本学の特色と学生諸君の個性について、卑見をのべましたが、前者については、今後同窓会の皆様のお智恵も拝借し、光輝ある建学精神や伝統を汚すことなく、十分ふまえた上で、新風を吹きこみ、五〇周年の記念事業の一環として、大学が大いに翔べよう、後者については、学生諸君がすぐれた個性を、ますます涵養するよう、及ばずながら努力するつもりです。

渾江十五号発刊を心よりお喜び申し上げますとともに、同窓会の一層のご発展および会員各位のご自愛・ご健勝そしてご活躍を祈念致しましてご挨拶を終わります。

昭和五十四年十月一日

大阪経済大学学園だより

飛躍する経大の実情

本年度は、従来の学園人事や行事予定にとどまらず、内各部よりの原稿を頂き、少しでも詳しい学内事情を同窓の諸君にお届けする事となった。年々充実する大学の実情に注目されたい。

『寄附行為』の変更

本年三月二十九日、文部大臣より「学校法人大阪経済大学・寄附行為」の第五次変更が認可されました。申すまでもなく、「寄附行為」は社団法人における「定款」に相当するものであります。今回の変更は、従来の部分的な変更とは異なり、全般的な変更であったため、理事会の苦勞は並大抵ではなかったと聞いております。

図書館に対し研究設備整備費補助金として、六〇〇万円が交付されましたので、合計三億八、八八五万円の補助額となり、本学の帰属収入に占める比率は、約十五パーセントとなります。

なお、経常費補助金三億八、二八五万円は、全国の私立大学二九四校中第一〇七位でした。このことは、大学の規模とも大いに関係しますが、本学の教育研究条件の改善充実こそが補助金の大幅確保にもつながるものとして、その具体策が急がれるところと見えます。また、補助金の増加にもない、文部省や私学振興財団等の行政指導が強まり、私学の社会的責任がより厳しく問われつつあるのが現状と申せまします。

電算室の開設

昨年度の本館増改築に引き続き、今年度は、図書館の全館冷房が完成し、電算室が新設されました。電算室は、本館二階の東端部に設けられ、本年六月に無事引き渡しが完了しました。設置された機械は小



新設された電算室

型に属しますが、大阪大学の電算センターとオンラインで連結されており、今後の研究教育面での活用が期待されます。

電算室の運営の現状は、まだ緒に付いたばかりですが、コンピュータ委員会を核に、事務レベルでも、各部署での職員研修と、将来の電算利用を目指した検討が鋭意なされておられ、手はじめに、就職関係の求人会社、データーを採り上げ、今後の就職斡旋に活用されておりますが、今後経理業務や学生関係業務等の電算処

松村幸一教授 英国へ留学

本学の経済学部教授、松村幸一先生は、本年四月一日より、一年間の予定で英国へ留学中です。

先生は、昭和三十九年岡山大学より本学へ赴任され、ご専門はイギリス経済史で、主としてイギリスの十五・十七世紀農業史の研究に取り組んでこられました。今回の留学は、更にその研究を深め発展させるため、ロンドン大学を基点にして現地で研鑽・視察をされることにあります。

最近の本学における長期留学の実態を、ご参考までに紹介しますと、泉谷勝美(伊)、故渡辺敬司(奥)、西口俊子(奥)先生に次いで四人目となります。国際化が叫ばれる昨今、今後ますます本学の教職員が海外研修を行い、海外との国際交流を深め、時代の要求する人材を育て、社会に送り出すことが望まれます。

『大阪経済大学 研究叢書』刊行

『大阪経大論集』や研究所の刊行物とともに、本学の研究成果の発表媒介物たる『大阪経済大学研究叢書』は、昭和四十三年の第六冊目を最後に、大学紛争等のために十年あまりとだえていきましたが、本年六月、久しぶりに第七冊目が刊行されました。著者は、古稀を迎えて間のない、経済学部教授杉浦貴一先生で、題して『英国不法行為法論』過失の一般理論。本書は著者が昭和三十年以来、多年にわたって地道に研究されてきた研究成果であり、学界および

53年度国庫補助金 三億八、八八五万円

昭和四十五年より施行された、私学への経常費補助金は年々増加され、本学においても、五十三年度は三億八、二八五万円が交付されました。また、

本年度は、従来より学内人事や行事予定にとどまらず、内各部よりの原稿を頂き、少しでも詳しい学内事情を同窓の諸君にお届けする事となった。年々充実する大学の実情に注目されたい。

法曹界での反響が期待されています。また、今年度中には、第八冊目の出版が予定されていますし、今後、毎年一冊ずつ刊行の運びです。

なお、杉浦教授の「英国不法行為法論」(A五版 二〇四頁)を「人用の方は、三千円(送料含む)で頒布いたしますので、本学庶務課までご連絡下さい。」

『大阪経大論集』(年六回刊) 年額 二、〇〇〇円以上 申込 本学内 大阪経大学会 『中小企業季報』(年四回刊) 年額 一、五〇〇円 申込 本学内 中小企業経営研究所

学園人事

学校法人関係

五四年 五・二八 理事就任 経営・助教授 大槻 弘 総務部長兼 玉岡 浩 庶務部長 内田三良 経理部長 岡本 正 経済学部部長 岡本 正 経営学部部長 門坂正人 教授 元浜清海 教授 元浜清海 五四年 五・二八 評議員就任 経営・教授 泉谷勝美 教授 香川一男 教授 北崎豊二 経済・教授 浜田幸策 図書館課長 石井敏雄 同窓生 桑津 昇 同窓生 阪上勤ノ介 五四年 五・二四 評議員離任 世良 錬次 理事

大学関係

渡辺達好 理事 里地三平 理事 五三年 一〇・二六 昇格 教授・教授 中川 操 経営助教授 渡辺大介 五三年 一一・一 昇格 経営・教授 小山賢一 教授助教授 滝内大三 教授助教授 森川 滋 経営・講師 谷口明丈 教授助教授 久野晋良 五四年 一・二六 昇格 経営・教授 高城 寛 教授助教授 樽本照雄 教授・講師 門田俊夫 教授・講師 六浦英文 教授助教授 西河光雄 教授助教授 小林龍一 五四年 四・一 昇格 教授・教授 里上謙衛 五四年 五・一六 昇格 教授助教授 近藤秀麿 教授・講師 山田裕康 五四年 七・一 昇格

経済・助教授 竹本 洋 四・一 新採用 経営・教授 岡村正人 五三年 一一・二三 退職 経営・講師 鈴木 滋 用務職員 柴田治夫 病氣死亡 五四年 一・一八 退職 経済・教授 渡辺敬司 病氣死亡 五四年 三・三十一 退職 経済・教授 田岡嘉寿彦 依願退職 経営・教授 小山賢一 依願退職 (現在右手大教授)

学生部

実態調査からみた学生生活

学生部の窓口から見ると、学生の生活は社会の変化の波をもちにかぶっていることがあまりに目につきすぎて、不安になります。学生が期待と少しばかりの敬意の入りまじった「学生さん」として扱われたのは全く過去のものとなり、現在は大学の大衆化というよりも、むしろ巨大な経済社会の大衆の渦に

飲み込まれてしまったというべきでしょう。学生部のわれわれは、若さと希望の学歌とはちがはくな学生達とのつき合いに、いささか翻弄されているといったところです。本学に籍を置く学生諸君達の様子をよく知るために、学生部では三年に一回、アンケート方式による「学

額)はかなりのものですが、大学奨学金の年額一〇万円は、学生の間にもあまり人気がないようです。面倒な手続きをして選考を受け、月割りにして二万円足らずを借りるぐらいなら、むしろ月二・三回のあとぐされないアルバイトというのが、今の学生かたきというところかも知れません。

実態調査に関しては以上の通りですが、最近の学内での一般的な特徴として、はじめに講義に出る学生がふえたが、一向に手ごたえがない、ということをよく聞きます。また学生が不満や要望を学生部にぶつけて来ることも非常に少なくなったように感じます。個々に内にこもってしまふ傾向をどう判断すべきか、八〇〇〇人の学生を前にして難問題に頭をかかえているところです。

就職部

就職戦線只今前哨戦!

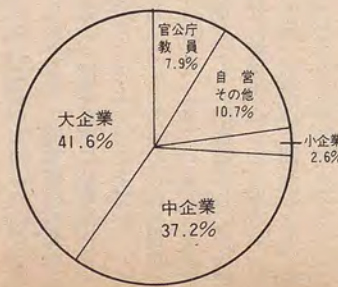
来春の就職希望者(両学部合わせ)一、五〇〇名は、十月一日(就職

昭和五十三年年度 就職状況

(昭和五十四年三月三十一日現在)

Table with columns for region (都道府県), number of graduates, and employment status (就職率). Includes data for Hokkaido, Tohoku, Kanto, etc.

規模別就職状況



主な就職先

Table listing various employment sectors such as Banking, Insurance, Manufacturing, and Public Service, with corresponding company names.

業種別求人社数

Table showing the number of job openings by industry, including Finance, Construction, Manufacturing, and Retail.

二部学生について見ると、定職を持つていないものは五五・九%で、漸減傾向があらわれ、反対に長期アルバイトが増加しています。別の方向から、勉学と労働がどうにか両立できる者が半数以上ある反面、学業にひどく支障があるとする者が二四・七%も見られ、今後何等かの対策が必要と思われる。

学生の経済生活に関連して、実態調査から少し離れて、奨学金についてふれてみますと、奨学金等の受給者は、日本育英会四四〇人、大阪経済大学奨学金(梓)一六〇人、その他の奨学団体約七〇人、大学の給費生(梓)四〇人、合計七〇〇人を超える人数は、私立大学として決して悪くないものであります。金額では日本育英会の特別奨学生一九〇〇〇円、一般一七、〇〇〇円(いずれも月

ないものと思われまます。おやじのすねの心細さを感じた孝行息子達は、小遣いぐらいいは黙って自分でかせぐようになり、それに気付いた親達との間に、暗黙の了解が成立するといったようなケースが多いのではないかと思います。それとは別に「アルバイトの必要度」の数字では、学年初めから調査の日(十一月二十一日)までに、アルバイトをしていない学生は一五・四%にすぎず、別の表ではしなければ学業継続困難七・七%、しなくても学業は続けられるが生活が苦しい四〇・二%となっています。更にアルバイトの実態を職種から見ると、軽作業・飲食業雑務・配達運搬・宣伝店頭販売が半数以上を占め、好ましくないことに、雇用対策の予備軍として利用されていることがうかがわれるのも残念なことでありまます。

調査から少し離れて、奨学金についてふれてみますと、奨学金等の受給者は、日本育英会四四〇人、大阪経済大学奨学金(梓)一六〇人、その他の奨学団体約七〇人、大学の給費生(梓)四〇人、合計七〇〇人を超える人数は、私立大学として決して悪くないものであります。金額では日本育英会の特別奨学生一九〇〇〇円、一般一七、〇〇〇円(いずれも月

54年度入試結果資料

本年度の志願者総数は、17,506名で本学としては開学以来最高だった昨年に比べ1,482名、7.8%減少したが、一昨年に比べると1,319名、8.1%増で史上第2位の激戦であった。

志願者数、倍率、合格最低点は次の通り。

1. 志願者・受験者・合格者・入学者数および倍率

1・2部	学部	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	倍率
第1部(昼)	経済	8,227(82)	7,364(69)	1,399(11)	670(5)	5.3
	経営	7,556(110)	6,673(89)	1,553(22)	785(9)	4.3
計		15,783(192)	14,037(158)	2,952(33)	1,455(14)	4.8
第2部(夜)	経済	936(8)	843(8)	287(5)	127(3)	2.9
	経営	787(3)	698(2)	292	148	2.4
計		1,723(11)	1,541(10)	579(5)	275(3)	2.7
合計		17,506(203)	15,578(168)	3,531(38)	1,730(17)	

()は女子内数

2. 志願者・倍率の推移(過去5年間)

1・2部	学部	志願者数	54年	53年	52年	51年	50年
第1部	経済	志願者数	8,227(82)	8,284(88)	7,121(86)	6,762(96)	7,327(95)
		倍率	5.3	4.9	4.0	4.4	3.8
	経営	志願者数	7,556(110)	8,923(167)	7,684(128)	7,561(150)	7,072(125)
		倍率	4.3	5.3	4.2	4.5	3.6
計		志願者数	15,783(192)	17,207(255)	14,805(214)	14,323(246)	14,399(220)
第2部	経済	志願者数	936(8)	839(9)	705(10)	586(7)	725(20)
		倍率	2.9	2.3	2.0	2.0	1.9
	経営	志願者数	787(3)	942(8)	677(10)	525(8)	713(10)
		倍率	2.4	2.5	1.9	1.6	2.1
計		志願者数	1,723(11)	1,781(17)	1,382(20)	1,111(15)	1,438(30)
合計		志願者数	17,506(203)	18,988(272)	16,187(234)	15,434(261)	15,837(250)

()は女子内数

3. 合格最高点・最低点(過去5年間)

学部	年度	内訳	54年度(450点)		53年度(450点)		52年度(450点)		51年度(450点)		50年度(450点)	
			点数	%	点数	%	点数	%	点数	%	点数	%
第1部	経済	最高点	340	75.6	346	76.9	348	77.3	363	80.7	363	80.7
		最低点	240	53.3	220	48.9	251	55.8	245	54.4	254	56.4
	経営	最高点	363	80.7	358	79.6	357	79.3	339	75.3	352	78.2
		最低点	240	53.3	252	56.0	241	53.6	237	52.7	239	53.1
第2部	経済	最高点	302	67.1	284	63.1	320	71.1	299	66.4	296	65.8
		最低点	172	38.2	159	35.3	156	34.7	156	34.7	165	36.7
	経営	最高点	311	69.1	298	66.2	286	63.6	268	59.6	285	63.3
		最低点	167	37.1	181	40.2	147	32.7	150	33.3	170	37.8

55年度入試要項

1. 学部・学科・入学定員

学部	学科	入学定員
経済学部第1部(昼間部)	経済学科	400名
経営学部第1部(昼間部)	経営学科	400名
経済学部第2部(夜間部)	経済学科	100名
経営学部第2部(夜間部)	経営学科	100名

2. 試験日・科目・時間・配点

試験日	教科	科目	時間	配点
経済学部(1・2部) 2月9日(土)	外国語	英語B	9:30~10:40(70分)	150点
		現代国語 古典1乙	11:20~12:30(70分)	150点
経営常部(1・2部) 2月10日(日)	選択科目(1科目)	政治・経済、日本史、世界史、地理(A・B共通) 簿記会計I・II	13:50~15:00(70分)	150点(計450点)

- ①地理(A・B共通)は地理A、地理Bの共通分野から出題する。
- ②簿記会計I・IIは簿記会計Iおよび簿記会計II(ただし工業簿記、原価計算を除く)。

3. 試験場

試験地	試験場	所在地
大阪	大阪経済大学(第1部)	大阪市東淀川区大隅通2
	大阪子備校(第1部)	大阪市浪速区新川3-620
	夕陽丘子備校(第1部)	大阪市天王寺区堀越町6-3
	浪速子備校(第2部)	大阪市北区芝田町69
姫路	姫路市農業協同組合	姫路市北条220
	姫路子備校	姫路市東延末211-5
	姫路労働会館	姫路市本町68
高松	高松市市民文化センター	高松市松島町1-15-1
広島	広島YMCA学園	広島市八丁堀7-11
福岡	水城学園長浜校舎	福岡市中央区長浜1-3-1
金沢	北陸放送MROホール	金沢市本多町3-2-1
名古屋	河合塾名駅校13号館	名古屋市中村区則武1-15-3

4. 出願手続・合格発表

- ① 入学案内書(願書) 11月上旬発売 千共700円
- ② 検定料 15,000円
- ③ 出願期間 1月14日(月)~1月28日(月)必着郵送に限る。
- ④ 合格発表 2月20日(水)午後2時

5. マークシート方式採用について

55年度から、解答方式を全科目一部マークシート化することになりました。

なお、マークシート化の割合は各科目50%以下です。

協定・十月一日会社訪問、十一月一日入社試験開禁の本番に向けて、連日、朝早くから夜遅くまで、資料室、求人掲示板、就職相談と熱心に会社研究を続けています。

昭和五十四年度就職懇談会から

■第三回

京阪神地区就職懇談会 昭和54年6月9日(土) 於 本学三階会議室

大学側から玉置学長はじめ藤田理事長、理事・学部長・部長、同窓会本部からは、広田副会長・磯野副会長・比企事務局長の二出席をいただき、三時間におよび、就職問題を通して、経大発展のために、先輩・大学・学生はどうあるべきかについて率直かつ愛情あふれる熱心な意見交換が続きました。

■岡山県就職懇談会

昭和54年6月24日(日) 於 岡山国際ホテル

昨年の四国地区に続いて、本年は地方で最もUターン希望者の多い岡山で開催しました。

大森支部長はじめ熱心な同窓生のご協力を得て、今回は支部総会にセットしていただき、大盛会のうちに終了しました。

同窓生の熱烈なご協力の賜と厚くお礼申し上げます。

図書館

就職部に対する忠告や、大学に対する強い要望など、多くの貴重なご意見を早速実施に移すべく努力する覚悟でございます。

現在の図書館は昭和五十一年に増改築されて、設備も参考室・開架式閲覧室を中心に、視聴覚室も整備した明るい近代的な図書館になっています。同時に書庫も従来の積層式(約三〇万冊収容)が狭隘になったため、最新式の電動書架(約十九万冊収容)が増設されました。また本年四月には懸案となっていた全館冷房工事も完成したことにより施設も一段と充実しました。

入試事務室

五十五年度入試要項について

入学試験は2月9日(土)経済学部、10日(日)経営学部を実施される、②一部マークシート方式が採用される、③選択科目が変更されるの三点で詳細は左記の通りです。

なお、ご参考のため本年度の入学試験の結果資料を簡単にお知らせいたします。

図書資料については経済学・経営学関係は申すまでもなく、社会科学を中心とする専門資料を体系的に収集するように努めており、現在の蔵書冊数は和漢書二四、八二五冊洋書九五、二〇八冊の多きに至っています。この中には創設者黒正巖博士の蔵書を始めとして、大北文次郎先生、西沢喜洋先生、菅野和太郎先生、福井孝治先生の貴重な資料も文庫として保管されています。

図書は大学における文献のセンター、心臓であるといわれていますが、図書館業務において重要なことにはこれらの文献をどのように役立てるかにあります。図書館の業務内容も、従来の図書を単に整理保管して閲覧に供するというものであったものから、サービスという面を重視するようになってきています。本館におきましても、図書館としての機能をお十分に発揮するため、参考係(利用案内係)の窓口を設置した他、新入生・ゼミナールに対するオリエンテーションや各種の広報活動を推進してきており、館員一同が教育に携わっているという自覚に立ってよりよい教育の場としての図書館を建設的に考えると共に、より有効的な図書館機能としての奉仕活動を行っていくことを課題として努力しています。

※卒業生も図書の貸出しを受けられます。一回三冊・一ヶ月以内

※コピーサービス 但し一枚20円

昭和53年度収支決算書

自 昭和53年4月1日 至 昭和54年3月31日

Table with columns for '収入の部' (Income) and '支出の部' (Expenditure), listing various items like '前会費', '総会費', '役員会費', etc., with their respective budget and actual amounts.

昭和54年度収支予算表

自 昭和54年4月1日 至 昭和55年3月31日

Table with columns for '収入の部' (Income) and '支出の部' (Expenditure), listing budgeted amounts for items like '前会費', '総会費', '役員会費', etc.

同窓会本部だより

総会はレストランパレスで

世良新会長就任後、初の総会が席を本学からレストランパレスに移して行われ、永年功労者に感謝して、表彰が行われた。本学の五十年も近く、より一層の充実が望まれる。

昭和53年度 同窓会総会

昭和53年11月3日
於 レストラン・パレス
(梅田 新阪急ビル12F)
長らく同窓会総会は母校で開催してありましたが、世良会長の誕生を機縁に、新たに総会特別実行委員会を編成して、若い同窓生を中心に夏

以来、鳩首協議のうえ、企画・準備を進めて参りました。

総会は、特別実行委員長、萩原氏(10)の開会宣言で始まり、前田委員(13)の司会、玉置学長・藤田理事長はじめ多数の諸先生方のご来臨を頂き、花をそえていただきました。とくに今回は永年の功労者に感謝状の贈呈を行いました。グリーククラブが学園歌をハミングするうち、渡辺達好(元同窓会理事長、現名誉会長)、荒牧博之(元北九州支部長)、岡田佐市(元東海支部長)、齊藤照雄(元和歌山相互銀行支部長)、三好悌彦(元神戸支部長)の先輩たち、顧問の浅沼(原)文恵先生(当日欠席)、梅田武文先生(当日欠席)、藤原光治郎先生も壇上へ、全員拍手のうちに、功をたたえて感謝状と記念品を贈呈いたしました。そのあと小休憩の時間を利用して、別室では本学広報部によるスライド「最近の学園紹介」を上映、一時からは谷口委員(22)



の進行で懇親会、軽音楽部の軽快な演奏あり、ソウカ氏(10回の磯崎氏)の絶妙なマジックに感嘆の声しきり、えびす顔の恩師と紅顔の学生に若返った新旧の同窓生、和気あいあいのうちに談笑また談笑、かつて以上の華やいだ雰囲気でも盛り上がり、グリーククラブとともに道遙歌斉唱、蛍の光の歌声に送られ、再会を約して閉会となりました。久々の学外での開催でもあり、地の利の便利さも幸いして、例年になく盛大な総会でありました。

《感謝状をさし上げた方々》

渡辺達好氏……昭和20年より実に33年間、同窓会の理事長として活躍、各支部への激励、育成、また大学の法人役員としてもご尽力下さいました。
荒牧博之氏……昭和30年九州支部を設立、20有余年支部長として支部の育成発展のためにご尽力、また母校福岡入試試験場の設置、監督協力など、多大の貢献をなさいました。
岡田佐市氏……昭和23年東海支部の初代支部長として就任、その間幹事役として、また支部長に再任すること20有余年、支部の基盤確立、

中小企業研究

大阪経済大学中小企業経営研究所編
日外アソシエーツ刊 A5判 6,800円

すいせんのことば 一橋大学名誉教授 山中 篤太郎
大阪経済大学の「中小企業季報」は1970年代学界が初めて持つことになった我が国中小企業研究の綿密周到な学界展望資料を主題とする珍重すべき刊行物であり、日本、否世界での研究に量りしれぬ価値を持ち併し大学の如き機関にして始めて継続し得る労甚だ多い定期刊行物である。今その創刊以来蓄積された研究業績展望を更に一步進めて中小企業研究の全側面に体系化して総合分析したものが本書である。中小企業は今一隅の企業群のみの関心事でなく、世界経済全体の進路に連なる基本問題たる性格を持つに至っている。わたしは、この時この書を得たことに全社会の注意を喚起したい。

発展にご尽力、母校名古屋入試の際にも公私ともどもご協力下さいました。

齊藤照雄氏……昭和35年職域支部として和歌山相互銀行支部を設立、諸般の事情により47年支部解散まで支部長として活躍なさいました。
三好悌彦氏……昭和22年神戸支部設立、20有余年間、支部長四年制の内規を設けて支部運営に新風を吹き込むなど、多大の貢献をなさいました。

理事会開催

◇昭和五十四年六月三十日(土)、

午後六時
◇レストラン・パレス(新阪急ビル)
◇議案
第一号議案
昭和五十二年度決算について
第二号議案
昭和五十四年度予算案について
第三号議案
その他
× × ×
司会 比企事務局長
定刻、司会の開会宣言により理事会を開催。
まず、世良会長より挨拶があり、ただちに議案審議に入る。
第一号議案。
平尾会計副部長より昭和五十三年

度収支計算について報告

中村監事より監査報告。

第一号議案。

谷口総務部副部長より昭和五十四年度予算案について報告。引き続き質疑に入る。五十周年記念は……、人件費は……、澱江奨学金は……と予算についての質問があり、これについて会長より
◇五十周年記念については大学側の方針が決定次第報告する。
◇人件費については若干のアップをし、予備費より支出したい。
◇澱江奨学金については、特に、中村理事の発言があり、常任理事会において検討する。

と回答。

これにより第一号議案、第二号議案とも万場一致で可決。
第三号議案、その他のうち、会長より、同窓会々費値上げ案について常任理事会に権限一任を依頼。万場拍手にて可決。

なお、加藤東海支部長より澱江の充実、武川東播磨支部長(代理)より人件費値上げによる事務局の充実、岸本理事より名簿追跡、その他貴重なお発言をいただいたが、なごやかなうちに議案審議を終了し、司会の閉会宣言で理事会を閉会。

ひきつづいて、別室にて懇親会に入り歓談したあと散会した。(写真は表彰式から)

同窓会支部だより

鳥取県支部が新しく誕生

かねてより、結成が待たれていた、鳥取県支部が去る五十三年十二月三日、亀井寛氏(十二回)を支部長として発足した。山陰地区の同窓生諸君もこれにより支部加入が可能となった。

え、当日、席上新支部長に十八回生 鮫島圭氏(大阪経済大学の第一回卒業)を推薦いたしましたところ、皆様のご賛同を得ましたので支部長の交替を決定いたしました。但し後任者の強い要望により、五十四年十月十九日に開催される支部総会の日、幹事を含めて正式にパトインタッチさせていただくことになりました。支部長として願えば、何等ご期待に沿った運営も出来ぬまま、ただ時間のみ過ぎ去ったように思われ心苦しき限りですが、今後は、人柄、識見、母校愛等すべての点に秀れた新支部長鮫島氏の運営手腕に期待し、その活躍を祈ってやみません。勿論小生も東京におりますので、出来る限り支部の発展に協力させていただきます。この紙面を借りて、永年に涉り、暖いご支援、ご協力を賜りました皆様方に対し、厚く御礼申しあげます。

東海支部

東京支部長 服部 友一

名古屋はさすが大都会だね。大阪より東にあるこんな都市に同窓生が四百人もいるとは心強い……何年ぶりに訪れてくれた九州のS君の言葉である。確かに神戸も京都も追いつけぬ人口数を誇るマンモス都市である。ただ郷土文化の貧困さからか、学生の眼は地元四分に、関東、関西各三分へ向けられているといわれる。母校も毎年ここで入試が行われ、十人以上は確実に市内の企業へ就職している、こんな意味から、東海支部は母校の東のトリデとして、いぜん健在である。

さて、東海支部の今年のニュースは、さる五月、中部讀賣新聞の社会面に六段囲みで大きく報道されたことである。「同窓会」と銘打った企画記事で、東大、京大、同志社大など有名大学の同窓会支部がどんな活躍をしているかを、順次紹介して行くという連載もの。初め同窓会本部から、新聞社から問い合わせがあったので、支部の自主性に任せると返事

同窓生の皆さんへ

同窓会には左に掲げるような二十六の支部が、それぞれ活躍しております。通常、年一回その地方で支部総会を開催し、年代は違っても同じ学舎で学んだものが集い、大いに語り、旧交を温め、ときには商売上に利用し合つて楽しい一刻を過しています。

支部所在地あるいはその周辺に居住、勤務されている同窓生の皆さん、是非、支部にご参加下さい。(本部事務局より)

同窓会支部役員

東京支部	支部長 鮫島 圭
東海	加藤 正秋
滋賀	野田 邦弘
京都	木下 隆徳
丹有	梶村 文弥
神戸	田中 義一
姫路	永川 仁一
和歌山	松本 旬弘
岡山	大森 喜太志
広島	佐々木 一義

東京支部

(一)、支部総会のご報告

昨五十三年度東京支部総会は十一月二十四日午後六時より新橋駅前「新橋亭」にて、盛大にひらかれました。当日は同窓会本部より世良会長、萩原常任理事、大学より内海教授、玉岡総務部長のご出席を賜わり、同窓会、大学の近況説明があり、引続き、五十名の支部同窓諸兄と膝つき合せての楽しいひとときを過しました。過去、出席された同窓生の顔ぶれを色分けすれば、これは当然のことながら、昭和三十年代は昭和商卒が約八割、四十年代は約五割、そして五十年代に入ると、約二割という比率になり東京で活躍する新進気鋭の若い卒業生が毎年増加して会場を賑わしている姿を見て、感慨に堪えない次第です。

(二)、支部長交替について

小生も東京支部のお世話をさせていただいて、今年で二十七年目になりましたが、この際「支部長」をより若い方に譲りすると共に、幹事も全員交替してフレッシュ且つ力強い東京支部への脱皮を果たしたいと考えて

(三)、支部よりのお知らせ

東京支部では、今年度より総会は毎年十月第三金曜日午後六時に開催することに決定いたしました。現在支部の新しい名簿(五十四年七月現在)を作成中ですが、十月十九日の支部総会当日迄に完成の予定でございます。

をしていただいたと電話をいただいた。岡田前支部長と相談した結果、前述した土地がらでもあり、ぜひPRしてもらおうという事になったわけ。

記事は終戦直後、名古屋市の依頼を受けた母校の上田藤十郎教授が、ナベカマ持参で「名古屋市史」の編さんに取り組んでいられる姿を市役所勤務の同窓生が発見、早速有志数人がコマやミソを持ち寄って、窓ガラスもない薄汚れた市役所の一室で、暖かい師弟交歓の風景が繰り広げられ、これが支部結成の発端になった

こと。第一回の会合は翌二十二年二月、栄町の「五金」で開かれ、会費二十四円で二十人余が参集した事、母校で学生課長や中国語の教べんとられた中島三郎先生が戦後岡崎へ転居され、岡田支部長のビルで同窓生に宴会で恥をかかないようにと、日本舞踊を教えられたことなど、百行以上の読み応えある大原稿として紹介され、同時に校章と懐かしい母校の旧校舎まで掲載されていた。来年度の母校受験生に多少でも反響があればと期待しているわけである。

さて今年もあと二カ月足らずで支部総会の師走となる。支部のみならず、心当りや、アイデアのある方はどしどし支部長までご連絡願いたい。

東海支部 加藤 正秋

京都支部

五十三年度京都支部総会は例年通り五十二年十一月十日(金)午後六時より京都市岡崎の洛陽荘において開催されました。

本年度は学校側より鈴木正里教授のご臨席を頂き、同窓会本部より萩原市郎常務理事の出席を頂きました。出席者、二十六名が学校の近況を聞きお互いになつかしく旧交を温め、楽しい歓談の一夕を過しました。

毎年のことながら七百五十通の案内状を送りましたが、三十名たらずの出席に終わります。出席者の顔ぶれも毎年ご出席という方もおられ、年一度の会合はその意味でなつかしいものでありますが、やはり新しい方の出席をいただくことが大切であります。

本年度は十一月十日(土)同じ場

所で開催を予定しております。どうかおさそい合せのうえご出席お待ちしております。

平素のご無沙汰をおわびし、同窓生のみなさまのご活躍をお祈り申し上げます。

京都支部長 木下 隆徳

西宮支部

昨年の激江第14号の支部だよりでご案内したところであるが、わが西宮支部は本年から隣接する宝塚、芦屋両市在住の同窓生諸氏を支部会員として受け入れ新たなスタートを切ることとなりました。支部設立以来、満十年を迎えて、今や会員七百余名を擁する支部に発展をみたことは、同慶の至りです。

昨年、支部長をお引き受け戴いた八木米次氏(一回生)は、去る四月二十二日の統一地方選挙に於いて見事八選を果たされ、五月には七回目目の西宮市議会議長の要職に就かれ多忙の毎日という有様となった。例年開催される六月定例市議会も、地方選の影響で六月下旬から七月下旬となり、支部長の公務が一段落ついた時期にということ、第五回総会は七月二十日(金)開催ということになった。

総会の会場は、従来、西宮市民会館を使用してきたが、昨年、改装工事中のため、やむなく借りた厚生事業会館(阪急西宮球場北隣)が、阪急電車「西宮北口」駅のすぐ近くに位置し、宝塚、西宮、芦屋三市の要的位置をも占めているのではないかと、いうことで本年も使用することとした。

総会当日、学校から来賓として玉置学長、同窓会本部から磯野副会長



和歌山支部総会から

山口	串田 一
高松	矢野 保郎
徳島	谷 俊一郎
高知	横田 憲介
北九州	嶋原 正孝
石川	石地与四太郎
福井	内田 甫
富山	重松 尚
三重	水上 敏夫
西宮	八木 米次
大阪市役所支部	金子 昭典
岐阜	丹羽 好輝
奈良	平尾 義之助
南九州	宮田 順一郎
東播磨	北井 清之
鳥取	亀井 寛

が酷暑の中、出席を戴いた。学長から経大の近況などのご報告を受け、磯野副会長からは同窓会の動向、活動状況、比企事務局長からは秋に予定している本部総会の案内、大阪経済大学々歌の学生ブリーククラブによるレコード吹込みの苦勞話、それを総会のおみやげとするので、是非出席してほしいとのお話があった。

この春から準備を進めていた大阪経済大学同窓会福井県支部主催・経大マンドリンクラブによる第四回福井演奏会は、去る八月十一日(土)福井市文化会館において盛大に催された。

演奏会は同窓会福井県支部長内田甫氏の挨拶について、第一部は山内宏指揮によるマンドリン・オーケストラ、ヴェルディの「凱旋行進曲」で開幕、澄み切ったマンドリンの音色は私達の心をとらえて次第にもりあがりを見せ、第二部のマンドリン・アンサンブルではクラブ顧問尾上欣子先生の本場仕込みのソロで心ゆくまで堪能させていただき、第三部ラテン・ステージではクラブ員のリズムに乗った演奏に魅了され、日頃このような機会の少ない我々にとって非常に有意義な一夜の催物となった。

経大マンドリンクラブではこの福井演奏会にそなえ、今春以来熱心な練習を続け、八月九日からは福井市婦人青年会館で合宿訓練を重ねた上での催しであった。このクラブとの出会いは、十二年前、福

大阪経済大学マンドリンクラブ 第四回福井演奏会によせて

井で初めて演奏されたのが契機となり、当時、本県出身のクラブ員が健在で活躍したこともあって、それ以来今回で第四回目を迎えた。同窓会支部の活動がともすれば、同郷の小さな懇親のみに情しがちな中において、本県の場合、若手の同窓生も多く、何か地方で意義ある活動をと考え、催物を通じてお互いの親睦を深め、支部の発展に努力して来た。すでに数回のクラブ演奏開催の経験をもっているものの今回は五年ぶりの久々の行事でもあり期待は非常に大きかった。

このような催しはこれら機会に経大の生々とした姿を地方一般の人達に理解していただくだけにと、まず、同時に我々同窓生を励まし明日への活動の泉となる絶好のものでもある。今回の催物についても本県出身の在学生への働きかけが不十分であったことを反省しているが、今後は在学生と同窓会支部との交流も地方において意識的に努力し、より有意義なものにしたいと考えている。

(吉田記)

次いで、清水先輩(五回)の音頭とりで全員乾盃を行い無礼講に入った。今回も、昨年に引き続き北今津のステークレストラン「五番館」(二十七回藤原省三君の実弟経営)に会場の設営、料理を依頼し生ビール二樽を据えて、ジョッキで豪快に乾盃と趣向を盛りあげた。

宴半ばで、岡野副支部長が司会に

和歌山支部

昭和五十三年十一月十二日午後一時より、農業会館大ホールにて、大阪経済大学同窓会和歌山支部第一回総会を開催致しました。大学当局より玉置学長ならびに倉辻教授、同窓会本部より磯野副会長、萩原常任理事のご臨席を賜わり、また、会員は、和歌山県庁職員運動会と日を同じくしたため二十名の欠席がありました。ほぼ各回から一〇三名の多数の参加があり、主催者側として同窓生諸君の愛校精神と、いかに今回の総会を待ち望まれていたかを痛感致しました。

玉置学長ならびに倉辻教授より大学の近況、また、磯野副会長、萩原

経済の国際化時代にふさわしい今後の中小企業のあり方を示す論文
解説および書評
中小企業に関する文献目録
年間購売料 ¥1,500 (千とも)
バック・ナンバーあり (千別)
1972年~1974年 1冊200円
1975年~1979年 1冊300円
お申込み先中小企業経営研究所

中小企業季報

国際化時代の中小企業の理論と情報

姫路支部

我々人間は日々繰返して経済生活営んでいる。又将来に向っても営み続けることであろう。姫路支部も齢三十一才。そして五〇〇名余のりどりなる三十六品種の今や今と咲き誇れる、いと気高くも美わし。そは同じ池なる泥もて育まれし花菖蒲にて、かの戦の世、うたかたの学窓に培われたるもの大いなるを奇しくも覚えし日なりき。

(文責 西村)

不参加の方に、

お知らせとお願い
通信その他の費用として千円(五年分)徴収致しました。不参加の方はご面倒ですが、大阪経済大学前田(山田)悦子までお送り下さいませよう。

また、五十三年度に基金として集めました千円、名簿代(二百円)未納の方は併せてお送り下さいませよう。お願い致します。

なお、今後恩師へのご香料なども十三会の諸姉と同じく、この中からお出しする事に決定致しました。

十三会総会

於 奈良ホテル

水無月十六日、緑したる古都奈良に、名にし負う十三会の才媛、はるけき地よりも雅やかに集えり。その様、折しも盛りの花菖蒲の艶を競うに似て、藤、紫、納戸、と



東播磨支部

兵庫中央南部に位置する「金物の町三木市」の播磨大社日月の宮大ホールで、炎暑たけなわの八月十二日(日)午前十一時より、第三回目の同窓会東播磨支部総会が二十五名の出席のもと開かれました。ご来賓として、玉置学長、磯野同窓会副会長、比企同窓会事務局局長のご出席を賜わり、母校の発展のもよう、同窓会の各県での活躍、同窓会本部の実情等をくわしく拝聴し、懐しくまた大変有意義なお話しに感動いたしました。ひきつづき、北井清之支部長(三木市府内吟醸の優等清酒「福乃太」(フクノフトリ)の美酒で乾盃をし、来賓、先輩、後輩の懇親会へと和やかな時間を、自己紹介をしつ、過しました。大阪市の堀江秀二郎、福知山市の前田乳夫両先輩のご出席

姫路支部

最近にない悪い出席者数となった。勿論十二年前にも僅かな出席者ということはあった。現実を見直しその対策を樹てつ、前進して来たのであるが一つの転機を迎えたと云うべきであろう。総会の期日の再検討、運営方法一例えばより多数の幹事(世話役)の選出等についても、抜本的な改革が必要であることを痛感した。幹部委員ではなく支部の方々の同窓会の在り方についての貴重な意見をお待ちいたしております。それによって今回の総会を決定通知したいと存じます。

日時 八月十日(金)一八時より二時間余
時間余
一、場所 姫路市十二所前町 北京閣
一、出席者 三三名
玉置学長、萩原常任理事、比企事務局局長
柳内明、永川仁一、長谷川博、藤本昭、東孝義、寺田安夫、上村博通、石寺修、長谷川孝、酒木照雄、鷹野克明、李家和、福永好文、川上康夫、川上堅士、藤井宏信、南石順一、遠藤光雄、藤浪賢治、山口登、小林隆男、門口公彦、植田一彦、内藤隆雄、田中孝八、井奥和也、田中正、筒井一郎、橋本榮介、内海猛。

支部長 永川仁一。

同窓生諸兄の皆様お元気ででしょうか。岡山支部も同窓生が段々と増加し、現在総勢七〇〇余名の大世帯となりました。これも母校創立者黒正先生の郷土という関係もあることでしょうが、それにも増して先輩、後輩の親密度ということも大いに関係ありとひそかに自負しています。唯、支部長の不省のため、五十三年度支部総会を開催することができず本年度は早々に開きたいものと考えていた矢先学校側より大阪経済大学就職懇談会を本年度は岡山地区で設定したいという意向にあまえ、其の当日支部総会も同時に開きたい旨申し出たところよろしく承諾いた

本年の支部活動で特筆すべきは、十六年ぶり再 和歌山支部総会と、山陰の主要都市鳥取に、うぶ声をあげた鳥取県支部総会である。和歌山支部総会は、松本支部長の熱意と、坂田補佐役初め役員諸の並々ならぬ、お骨折りによって遂に再開され、当日は、小雨降る中を、百数十名の出席を得て、まれに見る盛会であった。六百名を超える会員を網羅する支部会員名簿を頂いて、その編纂に当られた方々の苦勞を身にしみ感じて、今後、この名簿が、どれほど会員相互のお役に立つか、その効用は計りしれない。

総会は、松本支部長の喜びの挨拶に続き、玉置学長は、大学の近況と教学の方向として、世界時代

だき、去る六月二十四日山間の緑濃き佳境に在る岡山国際ホテルで大阪経済大学就職懇談会並に大阪経済大学同窓会岡山支部総会が開催され、成功裡に終わったことを支部会員にご報告申しあげると共に、大学側、及び同窓会本部に対し、そのご援助とご協力を紙面を借りて厚く御礼申しあげます。

当日は岡山支部同窓生約七〇名大 学側より藤田理事長、玉置学長、岡本経済学部長、高城就職部長、玉置総務部長をはじめ同窓会本部より萩原常任理事、比企事務局局長等全員約一〇〇名の集いの場となり午前十一時三〇分より十九時過ぎまで同窓生、恩師、同級生等のグループで展望と緑を誇るホテルのロビーに、喫茶ルームに、そして会場に談の花が咲き、

学の伝統に加えたいと抱負を述べられ、倉辻先生は、郷土出身らしく若かりし頃の思い出を語られた。同窓会本部からは、三万三千元員に対処して実施された役員機構の改正による会員制の採用、五十三年度総会の主要行事として行な

支部総会に出席して

副会長 磯野 齊

われた同窓会顧問藤原、浅沼、梅田三先生、渡辺名誉会長、永年功労支部長の表彰、大学本館増設による同窓会事務局の移転等について報告された。懇親会につづり、会場は熱気をおほえる程のもりあがりとなったが、若いA君は、こ

まさに感激的雰囲気になった楽しい半日でした。岡山支部総会は約二時間で終了してその後は就職懇談会、そして最後に懇親パーティで雰囲気盛り上がり、午後八時頃三々五々に散会しました。その中でも藤田先生のあのお年からは考えられない一時間に渉る学術講演は出席者に大きな感銘を与えると同時に心から益々お元気で母校の為に活躍していただきたいことを祈念して止まない感情が湧いた事は、最も印象に残った事でした。就職懇談会を通じて我々、卒業生の責務の重大さを感じると共に後輩のために、一層の努力をする事を、卒業生として母校に対する唯一の酬ゆる道であることの自覚は出席者一様に感じた事と確信します。たゞ残念な事は、七〇〇余名の在岡

んなに嬉しいことはない前置きして「古い先輩から我々まで、こんなに沢山同窓生が、この和歌山に活躍しているとは思ひもしなかった。あしたからは、大阪経大の卒業生やいうて胸をはって歩きますわ」といったがその顔は自信に

輝いていた。鳥取県支部総会は、四十一年卒業井亨君経営の三朝温泉花屋旅館で開催された。総会に備えて調整された名簿には、百五十五名の会員が登載されている。名簿を拝見して、驚いたことは、鳥取銀行を

同窓生の数から考えて七〇名の出席者の数は少し淋しさを感じた事でした。どうか岡同窓生の諸兄、次回よりの支部総会にはより一層のご出席方を心からお願ひ申しあげます。岡山支部役員

- 支部長 (六回) 大森喜太志
- 副支部長 (七回) 久保雄一郎
- 世話人 (二十四回) 小倉 好和
- 世話人 (十二回) 村上 一夫
- 世話人 (三十二回) 信定 峻
- 世話人 (四十一回) 草加 昌昭
- 岡山支部長 大森 喜太志

2頁(表紙裏)「同窓会員の皆様」同窓会長世良鎌次(四段目)一行目故黒正殿博士は故黒正殿博士の間違いですので訂正いたします。

初め、鳥取信用金庫、扶桑相互銀行等、地元金融機関に、多数の同窓生が集中していることである。定刻、ピンと引きしまった空気のうちに、総会は開かれ、齊木顧問、亀井支部長以下役員の見任が、極めて順調に承認可決された。和歌山に引き続き、ご多忙な時間をさいて、ご出席いただいた玉置学長から大学の近況が述べられ、同窓会本部からは、鳥取県支部発足に心からの祝意表明があった。亀井支部長の力強い就任挨拶と、齊木顧問の大蔵官僚から鳥取銀行常務就任迄のお話は興味深いものがあった。

「私と黒正イズム」①

六回 伊藤音七郎

生涯のバックボーン

「黒正イズム」って何? 先づ皆さんは、この耳馴れぬ言葉に、首をかき上げられるに違いない。無理もない話で、これは私達(昭和十二年入学)の間で、誰れ云うとなく、囁かれた言葉に過ぎないからである。しかし私にとって、これほど懐しく、重々しく、強烈に魂をひきつける言葉はない。しかも私達の卒業から、やがて半世紀を数えようとする今日、常に新しい響をもつて、迫ることに変らな

いのである。そこで、学園創立の当時を振り返り、現在の複雑多岐にして、多難なる経済社会を乗切るためには、先生のお言葉を噛みしめるのも、極めて有意義と信じ、その二、三をお披露申し上げたいと思つ

およそ、学園と呼ばれるもの、中で、その創設に当って、何ら趣旨、目的を持たずして、創立される学園はあるまい。その当初は、いかに美辞麗句に満ちていても、創立から年代を重ねるにつれ、その感激は薄れ、意義が失われ、果ては望却の彼方へ押しやられて、言葉だけが空しく形骸と化することも、さして珍しくはないと思われる。

わが昭和学園の創立から、日浅くして入学した私達にとって、創

研究の泰家であられた。私達には「経済地理」の講義をもたれ、週一回、二時間、親しくその温顔に接し得たのである。

私には、先生と共に、マックス・ウェーバーの名も忘れられないが講義は時としては大脱線に及ぶことがあった。先生の訓話には、道学者的なそれは趣きを異にする。合理的であり、情熱的で、若い私達の魂を躊躇なく魅了するのであった。

私達は秘かに脱線を待った。二時間全部が時の社会時評であったり、人生観、世界観に終始するものも珍しくなかったが、爆笑の渦の中で、私達は人生の指針を得たのである。二時間の授業がいつも短く感じられた。それこそが「黒正イズム」の本領であったろう。そこで私の受けた強烈な印象の警句を、次の三つに絞ってお話しよう。

「忘れ得ぬ三ヶ條」

- ① 青白いインテリになるな
- ② いかなる職場にせよ、必ず必要とされる人間となれ
- ③ 自分の人生は自分の力で拓け

①にある通り、先生は優弱なインテリを特に嫌われたようである。そのせいかも知れぬが、わが校風は至って荒削りの感が強かった。当時高商と云えば、官、私立を問わず、とかくスマートさが売物であった。どちらかと云うと、軟弱の風が見られなくはなかった。その点では、正に例外的存在であったろう。しかし他方、他で見られない美風のあったことも申上げておく。学生間の友情の温かさ、純粋性、熱血漢の多きこと無類であ

った。これも先生の董陶の賜物であろうか。私が後にサラリーマンとなり、周囲を見廻した時、先生の云われた青白いインテリは幾らもいたが、その無責任さ、無関心さ、消極的な態度、むべなるかなと思われしめたものである。

②は私自身、卒業後いや応なしに体験したが、いやしくも人間社会にあって、これを欠けるならば、おそらく存在理由そのものもないかに考える。だが云うは易く行つのはむづかしい。人生は積木のようなもので、一つ一つの積重ねが大を成して行くことは、戦後小さな企業にせよ、私の体験から骨身にしみているが、中でも信用こそは、企業を支え、活動を円滑にし、発展へと導く事に、述べるまでもない。

③も多言を要しないが、先生がこの話をされる時、や、眉を曇らされたことを、私は覚えていた。有力な知己や先輩、輝かしい伝統、惨めであった。秀れた企業に就職もむづかしく、たとえ就職しても、下積み不甘しなければならぬ。このことは現実の問題として、卒業を間近かに控えた私達にとって、避けて通れない課題であった。しかし今にして思えば、人間の道は、何処までも平坦ではあり得ない。試験こそ人間形成の好機である。当時弱輩の私達には、到底そこまでの悟りは無理であったが、先生も、この私達の胸の奥を察していられたのではあるまいか。山登りに譬えて、「自らの力で這上れ、上から引上げてくれる者は誰れもおらぬぞ」と激励されたお姿が今浮かぶ。



渡辺敬司君を偲ぶ

鈴木 享

私共の友人、渡辺敬司君を失つてから早くも八カ月が経った。なお未だこれからという年であり、かねてから自分の人生でなつてのゆく論文を書きたいと、聞いていたので、なおさらに悲しみに耐えないところである。

憶えば君を大阪経済大学へ推薦したのは、私であり、君の親友斎藤博君に頼まれたからであった。斎藤君の友人ならば間違いあるまいと思つたので話を進めたのであるが、果たして本学に専任講師として一九五四年四月に來られてからは、良き同僚として、学生の良き指導者としてわれわれは楽しい交わりをもつた。当時、経大の空気はなほだ牧歌的で、今から思うと夢のような良き古き時代だった。渡辺君は本当に酒が好きだったし、私どもも嫌いでなかつたから、よく近く一杯飲屋で夜遅くまで飲み続けたものである。よくもあれほど飲んだものだと思う。お互いに若かつたのだなあと思つた。痛切に思う。しかも話の内容は経大をどう良くしてゆかか、というよふな議論が多かつたよふに記

渡辺敬司先生を悼む

経済学部教授渡辺敬司先生は、昭和五十四年一月十八日午後六時過ぎ逝去された(五十四歳)。

先生は、大正十三年滋賀県神崎郡にお生まれになり、昭和二十九年京都大学経済学部大学院を終了、同年本学に赴任された。ご専門は財政学で特に地方財政を研究され、島恭彦(京大名誉教授)の門下生として、共著や論文も多数発表されており、誠に早世が惜しまれます。

憶している。

君がロンドンに一年間、留学し、帰つて来て、研究をまとめにとりかかる前に、教務部長に任せられ、すぐに大学紛争が起こつたことは、君にとって不幸なことだつたと思う。その頃から夜中に一時間以上もの電話がかかつて來るよふになつた。私も大いに悩まされることがつづいた。今から思うと彼もそうせざるを得ないほど苦しんでいたのであろう。

君とのつき合ひもほとんど三〇年近くにおよんだが、君は私に何事でも相談し兄弟してくれた。正直で素直な人物だつたが、紛争が君に与えた影響は大きく、屢々われの間に溝や隙間ができたこともないわけではなかつたが、間もなく旧に復しえたことは幸ひだつた。

最後に渡辺敬司君の御冥福を祈ります。

合掌

「在りし日の渡辺さん」

倉辻平治

渡辺さんは、もつともつと長生きしてほしかつた人である。人柄

しい。その日も、グラスを傾けながら、Verweide doch, du bist so schon / とくり返し口ずさんでいた。

渡辺さんのこと

上島 武

故人は経歴の上でも学問の上でも私にとっては大先輩になるのだが、あえて「先生」と呼ぶにはあまりにもあたたく親しみの深い方であつた。生前もそう呼んでいたし。今も、なつかしい思い出は「渡辺さん」のこととして記憶されている。

渡辺さんはまず「酒の人」である。それも酒それ自体を真に愛したから、飲む場所のいかんを問はず、肴の良し悪しを気にされなかつた。晩年、体調がすぐれぬためか小さな盃をゆつくりと重ねながら料理に箸をつけることの少なかつた渡辺さんであるが、これも体に良くなかつたのだろうか。今でも駅前あたりで繩のれんを分ければ、そこに渡辺さんの本当に楽しそうな顔があるよふな気がする。

渡辺さんは趣味の人でもある。よく書画の類を眺めておられたが或る時、古本屋にあつたといつて顔真卿の古い法帖を送つてよこされた。「幼き子等の手習いの一助に」と、肘の張らない、丸味をおびた、これもあたたかい手のあとであつた。

「ゼミの集い」欄を設けましたので大いに活用してください。この原稿は、現在、大阪経済大学でゼミナールを担当されている先生がたにおたずねしたうち、ご返事をいただいたものを集録したものです。ご参考までに、事務局よりゼミご担当の先生におたずねいたしました事項は、一、最近ゼミナールOB会を開催されたことが、

井上ゼミ 井上 清先生

井上ゼミOBの諸君、お元気ですか、お伺い致します。小生も引続き元気にやっていますのでご安心下さい。清寿会は隔年に開かれますので今年が開かれず、来年の第六回総会を準備中です。今や七〇年代も終ろうとしています。今にして思えば、七〇年代を迎えた時「黄金の七〇年代」といった資本主義賛美の言葉がいかにも加減のものであつたかは、誰もが認めざるを得ないでしょう。希望と現実(資本主義の危機の深化)を取り違えるところなるわけです。ここに科学的理論を身につけることが重要かつ有用となります。卒業後も引続き勉強して先見性を発揮し、前途を誤らぬよふ希望します。そうでないといつても政治家の大言壮語にだまされることになるでしょう。健康に注意して歴史の発展法則に沿つて考へ行動して下さい。そこには生きがいのある人生が待っています。

清寿会(井上ゼミ)

昨年春、清寿会総会を開催して以來、主だった会合は致しておりますが、第六回総会を昭和五十五年春に、大阪に於て、昭和五十四年度卒業の新人、OBもまじえて盛大に催

したく、目下、事務局で検討しております。

なお清寿会会則にもありますよふに、二年に一度の総会を開くべく準備致しておりますが、清寿会OBの皆様方の総会に対するご意見をお待ち致しております。

清寿会事務局より 文責 小西

池野ゼミ 池野重男先生

ゼミナールをはじめもつて卒業生を送り数ヶ月が経過しました。各自は実社会で毎日頑張つていてくれることでしょう。そのみんなが誕生祝をしてくれたわが息子君も高もいまや七ヶ月となり暑い京の「初体験」をしています。が元氣です。

さて、はくの近況ですが、あいかわらず「保険史」― 当時は中世の南欧商業圏を中心としていましたが、いちおうの整理を終えて、いまは北欧商業圏とくにイギリスを中心とした保険史を具体的に展開しようと思つて、産業革命までの商業、経済、貿易などの関連分野の歴史を調べているところ。また、やっぱり私も乱読もしています。最近では、笹沢佐保「詩人の家」文芸春秋を読みその主人公の父親の人生を我が身に照らして苦笑したところ。各自の頑張りを期待しています。またも

ゼミ短信

稲原ゼミ 稲原康雄先生

う一度賢島へ行きたいですね。一度一度賢島へ行きたいですね。昨年手違いから寄稿できなかったところ、今年の年賀状で随分と催促を受けました。この欄がOBと大学をつなぐ大切な絆であることを改めて認識するとともに、ここでOB会の再編を呼びかけたいと思います。これ迄、そんな世話話金と暇が出来てからやるものだと水をかけてきましたが、今や全学的に世代の断絶と伝統の亀裂が懸念される時期にさしかかりました。来年の年賀状で意見をお待ちします。なお昨年のゼミ旅行は石垣島にまで脚を伸ばし、今冬は第二次東北南部廻りをやりました。しかし冬期辺陲地ゼミ旅行シリーズはこれで完了した模様です。今後の新しい企画は、三年前に発足した「鉄道研究会」の面々が打ち出すことでしょう。

現在、ゼミのテーマは都市交通の諸問題ですが、省エネ下、公共交通機関のトータルシステム化は不可避でしょう。そのウイジョンについては大阪陸運局編「いま私たちは考える― 交通―」をご覧下さい。

上岡ゼミ 上岡正行先生

ゼミ卒業生の皆さんお元氣でこ活

ございますか。されました時は、その世話役に原稿を提出するよふお願いして下さい。二、先生の近況につきまして卒業生に一言お知らせ下さい。三、その他雑感、随想などございましたら、ご寄稿下さい。(事務局・アイウエオ順)

喜田ゼミ 喜田義雄先生

喜楽会

私達、喜楽会(喜田ゼミ第一回卒業生・21回生)は、毎年、年末には先生を囲んで忘年旅行をする習わしで、一昨年は熱海のかじか荘で、喜田ゼミ関東地区総会を兼ねて行いました。

昨年度は四国地区の喜田ゼミ卒業生と合流して懇親会を開催しようということになり、松山在住の吉原貞夫氏(28回生)の東奔西走により昨年十二月に道後温泉川吉別荘に参集しました。

一行(六名)は先生と共に空路にて四国の地に足を踏み入れた途端、歓迎陣の機敏さに驚くのでした。それは館谷輝四郎氏(28回生)が大阪から自動車で四国案内の為に來てくれていたのです。同氏の自動車で旅館に到着しました。旅装を解いた川吉別荘は喜田ゼミ卒業生の税理士、

島津論氏(34回生)の顧問先です。経大卒業生の活躍振りを目的のあたりに見て先生も大変なお喜びの様子でした。

夜の宴会が始まる頃には、四国の各地から恩師を慕って集った卒業生十五名が顔を揃え、喜楽会のメンバーと相い和して賑やかな宴となりました。

翌日は鈴谷氏の運転・吉原氏の案内で、近代化されつつある中にも城で町の名残りを止どめる松山市内を見物、子規堂、伊予会館、松山城を遊覧したのち、折からのしぐれで肌寒い松山空港を飛び立つたのでした。

喜田ゼミ総会について

喜田ゼミ卒業生の皆様、昭和五十五年の春は、総会開催の年にあたりますが、先生が五十六年に喜寿を迎えられますので、そのお祝いを兼ねて開催したく一年延期しますので、よろしくご了承ください。

倉辻ゼミ 倉辻平治先生

一、ゼミナールの近況
〇ゼミ生数、三年生三十一名、四年生二十七名
〇ゼミテーマ、経済成長と経済政策、特に、最近の高度成長もたらしたマイナス面(自動車公害、都市問題を中心としてゼミナールでの検討を進めています。

境である。
ところで、私のゼミ出身者で教職希望者の多いのは結構のだが、五、六年前のOB二、三人の中に、同僚が小・中・高の教諭経験を経てそろそろ中堅幹部たろうとしているのに、又、後輩ゼミ生もどしどし教育界に進出していくのに、未だ大阪府市教員採用試験にパスできぬ者があつたのを憂えさせられる。若いからまだまだこれからというのかもしれない。しかし要するに、この教職の峻厳苛烈な時期に生半可な態度で臨んでいるのではないか。現役学生の合格者がそれこそ死物狂で毎日十時間ぐらいい、中・高のテキスト、受験用専門書、学習指導要領、新聞記事等で学習しているのに、それらOB不合格者はインベーター、パチンコ、漫画雑誌ぐらいいに明け暮れしている(??)のではなからうか。むしろ、方向転換でもすべきではないか。憎まれ役で苦言を呈する次第である。

建林ゼミ 建林隆喜先生

昭和五十四年九月十五日(敬老の日)第一回OB会をランドホテル十四階グラントスカイに於いて行いました。パーティーは会費制で、バッキング料理をつつく立食の型で和気あいあいと約三時間(午後一時開始)なごやかな雰囲気の中で行われました。

昭和四十六年の第一回卒業生から我々現役の四年生(第十回)まで約三百名のOBのうち出席者は五十余名で、最初のOB会としてはまずまずの出席率だったと思います。
会は先生のご挨拶、同窓会本部の



倉春会総会から

小生ゼミ卒業生の集い(倉春会)は、本年は七月七日第八回目を梅田新阪急ホテルでもちました。東京、北陸、四国、山陰の各地からもはせ参じ、現役学生も交えて八十余名出席、たのしい一夜をすごしました。

第八回倉春会

倉辻ゼミの同窓会として初めて会合を持ったのは、八年前の天王寺の都ホテルの一室であった。その後会場は賑々としたが、毎年七月中旬の土曜日に催されてきて、今ではすっかり年中行事の一つとして定着してしまつた。今年七月七日の「たなばた」の日、新阪急ホテルに比企同窓会事務局長を迎え、東京、名古屋、金沢といった遠方からも駆け付け、八十余名のメンバーが集い、倉辻先生を取り囲んでの二時間半余を、大いに飲み、食らい、且つ語り「たなばた」にふさわしい一夜を持った。この様に順調に発展している倉春会にも悩みはある。まず、サービス

比企事務局長のご挨拶、そして第一回卒業生の長峯寛さんの音頭による乾杯を契機に夫々のグループ毎に歓を尽くし、アルコールも程よくはいつたところでまず神原一(昭和五十二年卒)さんの祝電が披露され、その後は、昭和四十六年卒業生(第一回)から各人が学生時代の思い出話や近況報告を次々と自己紹介を兼ねて行い、話題が学生時代の面白いエピソードや奥様や子供のこととなると、先生をはじめ皆さん大笑いでした。

スピーチの後には現役を代表して私が挨拶をし、そして今後の方針を話し合いました。まず建林ゼミOB会の正式名称を応募した結果、隆盛会と決定しました(以後ゼミOB会は隆盛会)。「りゅうせいかい」とは、建林隆喜先生の隆からもじり、これからも我々教子達が増々盛りたててゆこうではないか。又先生ご自身もすっかり気に入られ、多数をもって決定しました。余談ですが隆盛会以外では建林会、建立会等々ユニークな名称もいくつありました。

又「隆盛会」の今後の活動として、毎年一回、九月十五日の敬老の日を開催することになりました。そして隆盛会のお世話をしていたく正式な幹事を、四十六年卒業(第一回)の山西万三さん、四十七年卒業(第二回)の渡辺茂夫さん、五十年卒業(第五回)の田中一良さん、五十一年卒業(第六回)の徳本薫さん、五十四年卒業(第九回)の速水靖さんの以上の五名の方々にお願いしました。
その後は再び愉快に歓談し、四十七年卒(第二回)の進明秀一さんの音頭で全員スクラムを組んで学歌を斉唱、同じく第二回卒の神里米富さん

業、特に販売小売業に従事する人には土曜日に開催される為に参加することが難しいということである。また、関西出身者が多いとはいえず、大阪での会合は遠方からの参加者には時間や費用等の負担も大きいということであるが、これらはすべて各人の好意に甘えている状況であり、今後、会としても何らかの対策が必要であるが、ただ一人淋しく片隅で静かに盆をかたむけているメンバーの一員を必ず二、三見かけるからである。倉辻先生から便りをいただいたから参加したというのでは余りにもその本人にとっては意味のない倉春会であろうし、ただ会費を払って飲食するだけでは、これまた余りにも経大卒生らしくないし、また、倉春会設立の意にも反するのではないだろうか。倉春会が華かさだけでなく、もう少し実のある会にするためにはどうすればよいかをメンバー全員が考える一つの曲り角に来ているように思えてならない。この様に解決すべき問題も残されているが、いずれにしても毎回盛会のうちに二年後には第十回大会を迎えるまでに倉春会も発展してきた。現役の三、四回生のゼミ生諸君が裏方として煩雑な事務局の仕事をしつかりやってもらってきたお蔭であり、その地道な努力に対し大いに敬意を払うと共に先輩として心からお礼を申しあげたい。

来年の第九回倉春会も今回以上の音頭によるパンサイ三唱で締めくくり、午後四時、名残りを惜しみつつ、来年の再会を約し散会しました。

建林ゼミ「隆盛会」現役学生幹事 四回生 齋藤忠俊

玉井ゼミ 玉井孝弘先生
諸君、爽やかであるか。余は胃・肝・心・糖(イカリシントウ)の諸病に愛され続けて老境に達した。なれど、老来、彷徨の情は弥栄に燃焼し続けておる。

ゼミ旅行は佐渡の金山に流人の昔を偲び、また、ヨロシ島の銀座に遊んだ。学生諸君もまた、理性豊かにメリケン国に飛んでおるようじや。余はこの夏、メリケン国、メヒコ、カナダを彷彿存念じや。命短かし、束の間の灯を燃焼しつくせ。

諸君の弥栄を祈るや切なり。

中川ゼミ 中川 操先生
「中川ゼミ」卒業生のみなさん。お元氣ですか。今年の二月、はじめて卒業旅行で外国に行きました。最初です。一番近い外国というわけで香港をえらびました。中々充実した楽しい旅でした。特に船上ナイトクラブでのデイスコは、学生生活最後の良い思い出となったのではないのでしょうか。七月に慣例のオープンハウスパーティーを開き、一晩語りあかしました。その後私はフランス、ドイツ、オーストリア、スイス、イタリアを旅しました。スイスは二〇〇km位をレンタカーで五日間かけて走りまわりました。特に車でアルプスの山を越え、イタリーへ行った時は生きていて良かったと思えました。三回生のゼミ旅行は長崎へ行く予定です。

盛会であることを願うとともに、倉春会メンバー全員がもう一度反省して発展的方向に向って努力する必要があるのではなからうか。

田中ゼミ 田中健一先生
ゼミ担当者の近況や雑感の報告を依頼されるままに、心配かけ、立腹させるかと憂えるが、ご容赦ねがいたい。昭和八年来、公私立の教壇に立ってきて本年三月末で退職となり、現在、特任教授の身分、外観は健勝そうに勤務し、ゼミ生等の結婚式でスピーチしたりであるが、七十歳を越した私は心身ガタガタ状態である。先ずは持病の頑固な肩こりに毎朝一時間近くもマッサージ機でほぐさなければ、脳動脈硬化で昇天しそうな不定感である。高血圧(昭和四九年左半身不随で倒れてから)の方は降圧剤を運用しているので一応は正常であるが、今後運用必要である。

ともかく、体調は一度くるわすと元も子もなくなるので、体調調整に努めるのみの毎日である。かくて研究はできず学生への教育教授のみの専念で、大学教師としては辛い現心境である。

原田ゼミ 原田博治先生
小生近年ずっと病氣中でゼミらしいゼミができず、小生の自宅でゼミを行う状態でした。従ってゼミの学生との交情も薄く遺憾に思っています。そのような有様ですから、別に申しあげることはありません。あしからずご了承ください。目下病氣中です。煩わしきことは避けたいと存じます。お許し下さい。

藤原ゼミ
藤原光治郎先生
藤原ゼミの皆さんへ

皆さんお元氣ですか。小生、この春三月で七〇歳定年退職となりましたが、引続き特任教授として、学部および大学院で教鞭をとっております。思えば私が本学に在任しましたのは四十数年間でありまして、いわば学窓を出てからの私の全生活期間を占めるわけです。経大にたいする私の愛着がそうさせたのでしよう。袖ふれあうも何とやらといいますが、ゼミの諸君、ゼミ以外でも特別の縁のあった方々との交わりは、今にして思えば金銭では買ふことのできな

いこの上もなく貴重な宝物だと痛感しております。数年前、私のゼミの卒業生(藤原会)というものに組織されています)の第一回目の集まりが

盛会であることを願うとともに、倉春会メンバー全員がもう一度反省して発展的方向に向って努力する必要があるのではなからうか。

第47回卒 森川雅晴記

田中健一先生

田中健一先生

田中健一先生

大阪で開かれ、たくさんの会員諸君にお目にかかることができましたが、このような私利私欲をはなれた心あたたまる会合は、エゴの支配するギクシヤクした今日の社会では、ちょっと他ではもちえなないものと感涙にむせぶ思いでありました。

現役の諸君も元気にやっております。いずれ皆さんの後を追って、このきびしい「現代資本主義」(学部のゼミのテーマです)のるつぽの中に飛び込んで行くことでしょうか。皆さん

んのご支援とご健闘を祈ってやみません。

なお、藤友会々長は浜崎克巳(21回卒、大阪府医師会勤務)君です。また、藤友会についての連絡は川村理哲

君のところへお願いいたします。

松原ゼミ 松原和男先生
今年もゼミナール内の第三回ソ

フトボール大会を、去る五月十九日(土)に開催しました。優勝は実力通りだったのか、三回生が四回生に花をもたせたのかわかりませんが、四回生Bゼミチームでした。

なお勉学の面でも、昨年に続いて関西ブロック、および全日本学生ゼミナール大会に参加すべく頑張っております。卒業生諸兄の声援をお願いします。

松村ゼミ 松村文武先生
卒業生の皆さんお元気ですか。私にとつて経大第一期生にあたるので、皆さんの社会人としての活躍をことのほかねがっています。小生妻の事故と過労で心配をいただきましたが、元気を回復しつつありますのでご安心下さい。ゼミでは、もうしばらく多国籍企業の分析をやっております。何ごとにつけても進歩の気概を失わずに頑張ってください。

毎年のことながら桜の花が咲きはじめる頃になると、それぞれの地方からさまざまな思惑を胸に秘めた七二名の新入生が学生寮へやってくる。あるものは希望に燃えて、あるものはシヨボくれて、またあるものはパパママに連れ添われて……。学生寮の受け付けがこうした人々でこつた返す風景はいつの時代でも変りはない。ここには入寮日(例年、入学式の前日)ということになっている。からおよそ一週間にわたって行われる当学生寮ご自慢?のオリエンテーションについて述べてみよう。

学生寮とオリエンテーション

——充実した学生々活をおくるために——

初日の入寮日は若干のあいさつの後、学内の「クラブ紹介」、OBとの「懇談会」、しゃぶしゃぶをつつきながら進められる「新入生歓迎会」と、午後一時から夜遅くまでみっちり行事が組まれている。遠路はるばるのお出向き下さった新入生諸君には、多少、ハードスケジュールの感がしないでもないが、ここは一挙にやってみよう……。

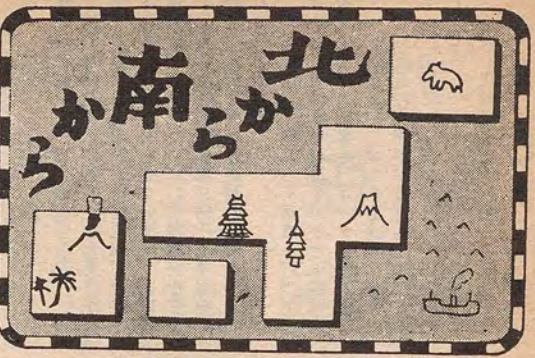
入生は、おぼろ気ではあるが次第に大学で学ぶことの意義や大学生活というものを認識しはじめる。三日目の「音楽の夕べ」、「ソフトボール大会」となれば彼らの天国だ。音楽の夕べではロック、ジャズ、ヒット曲の数々がスピーカーから流れ学生寮はステレオ・コンサートの間と化す。最も人気の高いソフトボール大会はプロ野球よりひと足さきにナイト・ゲーム

で行う。不慣れたため凡夫が続出……。友情が芽ばえ、軌を一にして寮生活の足並みが揃うのはこの頃からである。四日目「グループ・ダイナミックス」(グループの性質と参加的リーダーシップの意義を体得するゲームのようなもの)、「五日目「ティーチ・イン」(大学の先生とヒザを交えて懇談する集い。本年度は渡辺泉先生に依頼)。六日

回りも逞しく成長した若者になっているから不思議である。

このオリエンテーションの期間中は新入生のみならず、われわれにとつてもまた苛酷でつらい精神的葛藤を要求される日々でもある。人々はそうした試練をくぐり抜けて初めて世間を知り、友情を深め、そして成長してゆくのかも知れない。「寮風永遠」は当学生寮に掲げられた色紙の言葉であるが、もし学生寮に一九九一年間におよぶ伝統の重さを引継ぐものがあるとすれば、このオリエンテーションを措いてほかにない。わずか一年ばかりのふれ合いにすぎないが、青春のページを飾るにふさわしい寮生活であつてほしいと願うばかりである。

敬具



アンケート集

この原稿は、同窓会会員の皆さんからお寄せいただいたもので、事務局の名簿により無さく抽出された方々です。

といつても、単に何でも結構ですというわけにもまいりませんので、特に①現況について ②母校同窓会に希望すること ③同窓の友人などのこと ④自由にお書き下さい。ということアンケート式の質問に対してお寄せいただいた短信です。もとより、同窓会会員は全国各地にあつて、北は北海道から南は沖縄にいたるまでそれぞれ活躍中ですが、これはその近況です。

勤先 損保代理店(自営)

第五回 伊吹雷乗

定年後の仕事も五年目を迎えました。最近航空機利用で、母校上空通過が多くなりましたが、母校の校舎さえ見えないうのが残念です。今の仕事も終えて、時間が自由に利用できる時がきましたら、ゆつくり大阪をお訪ねしたいと思っております。

同窓会にも遠隔のため、出席できずしておりますが、九州の一隅で、元気にやっております。皆様のご健勝をお祈りいたします。

第五回 富山重一郎

健康を害して昨年十一月に現役を退き、相談役で大阪在勤となり、愚妻と二人十八年振りにわが家に落付きました。

藤原先生には益々ご健健で心強く存じます。これから同窓の皆さんともお逢いする機会が多くなるのを楽しみにしています。子供達もそれぞれ独立し、長男に孫一人、長女に孫二人、次男はまだ独身です。

第六回 鈴木静男

一、現況、卒業後四十数年経過、この間軍隊生活数年間、以後サラリーマン生活。六十才を越し、いまだ健康で勤務しております。勤務先、日本橋倉庫名古屋事業部業務課長、高齢になつても、やはり職業をもち、若い人と接しておること

が健康のもとと思っております。

第六回 松井正之

其の後は大変永らくご無沙汰いたしました。おりましたが、母校の諸先生方を初め同窓会各位にはご健健で活躍の事とお慶び申しあげます。このたびは「瀬江」に寄稿させていただきます。お礼を申しあげます。

第六回 松井正之

私は三十九年前、母校を卒業し同級の石島君、佐々木君と共に備島津製作所に入社、実社会への第一歩を踏み出しましたが、激化する戦況にいかんともしがた兵隊に行き、終戦までは無茶苦茶でした。石島、佐々木両君は退社し、別の道を進まれたが、私は一人踏み止まって昭和五十年四月の定年退職まで頑張ってきました。同窓の竹村君が日本電池㈱に居た時々連絡を取りながら過ごして来ました。名古屋時代は岡田君に世話になりました。定年退職後は旧制中学時代の先輩の経営する近く(関ヶ原)の建設業㈱三宅工務店に世話になつて居る次第です。

高度成長から低成長へ、また第二の石油危機と目まぐるしく世の中は変わります。皆々様のご健康とご多幸を祈っております。

第七回 小松千秋

このたび「瀬江」十五号発刊に際し、はからずも紙面を割愛させていただきました。機会に恵まれましたので、諸先生、同窓会の皆様、また懐しい級友に挨拶できればとペンをとつた次第です。思えば昭和十六年三月、黒正校長のもとで卒業してから四〇年になるうとする年月が流れているところですが、先生の類は広く髪は黒々と、太い眉、モーニングに身を包み、全身を躍動させながら各々に最後の講義をして下さるかのごとく饒別の辞をたまわりました。その中でいろんな言葉が思い出されますが、日本もそのうちインフレになり通貨は乱発され硬貨は水に浮くような代物になるとか、大蔵大臣は日本一の金使いの名人でなければならぬとかなどというところが脳裏に残っています。

戦後経済状況が先生のおっしゃった通りになったことは周知の通りですが、ご専門の経済学を通じて将来を的確にとらえていた当代理類のない学者であられ、また生きた学問を教えられた偉大な教育者であつたと思われるものであります。

私達が卒業した年の十二月に、第二次世界大戦といういたましい試練を経験することになったのですが、戦後を飢饉期復興安定期、高度経済成長期と大きく三つに分けられるのではないかと思ひますが、私は日本の飢饉期に地方にて経済統制の仕事をしていましたが、高度成長期の三十年時代は中央に転動して各官庁の運営の状況を把握するため、行政監察の

第三回 塩津義郎
一、小生、石川島播磨重工業を定年退職後左記のところへ再就職、健康状態もまああつたところですが、
二、当地方には同期生は一人も居らず淋しい限りです(後輩の方は沢山おられ、活躍されています)
三、母校も五〇周年が間近、これを転機に更に飛躍を期待します。

第四回 原秀夫

上新庄の学園を巣立ってから早や四十年。住友海上を定年退職してから七年になります。ただ今は、損保代理店として三十三年間体験してきた損害保険で世の中のお役に立ちたいと日々努力を重ねております。現役時代は転勤であちこち歩きましたが、十年程前から横浜に居住、関西には年に一度盆の展覧の旅で舞鶴へ帰郷するぐらいです。折にふれて楯田球を追って走り廻ったグラウンドをなつかしく思い出しています。ラグビー練習が終って校門を出る時上りの急行電車の走るのを見て之に続く普通車に乗る為川沿いの道路を駆まで走った事等、昨日の事のように思い出します。勤労奉仕で植えた校内の花木は元気でしょうか。母校の隆盛を祈りあげます。

仕事にたづさわりの全国を走り廻っていました。おもえば、この時代が私にとって、もっとも意義のある十年であったように思われます。こういう時、先生の日頃の教えが仕事の糧となったように思います。わが母校の礎は黒正校長によって培われたものと確信するとともに、今後立派な大学として益々発展することを祈念するものであります。今、こうしてペンを取っていると学生時代の事が走馬灯のように思い出されます。武運つたなく戦死した親友、喫茶店へ、呑み屋へ、質屋通い、はたまた夕食をいづも「みもの」食堂でした友の顔が浮びます。

その頃、支那経済研究所(?)におられた久野先生とも再々一緒しました。先生は黒正校長の愛弟子であられたが、いまや有名哲学者としてご成功され、心から祝福を申しあげたいと思います。

さて、最後になりましたが、私は昭和四十九年四国の松山で役人生活を終り、そこで第二の生活に入り、今年の一月から郷里の高知へ転勤させていただき、左記のところで元気に(?)暮らしています。

とりとめのない事を書きつらねました。「あんな奴もいたよなあ」と思い出してください、葉書一枚でもいただければ拙稿の甲斐があったように思うのであります。

第九回 浜田 正治

卒業後いたずらに馬鹿を重ねて三十数年、昨年朝日新聞社を定年退職。現在小生広告会社の役員をしています。大阪の勤務が無かったせいにして同窓会など全く無沙汰。数年前創立四十周年とかの総会でたゞ一度母校を訪れただけの不良OBであります。

仕事と遊びで海外へも何度か行ってきました。そのせいか目下のところ趣味は西洋中世史の読書とバロック音楽の鑑賞です。下手ながらゴルフも少々。またただ今二度目の禁煙中。最近入恋しくなりました。諸兄のご連絡をお持ちしています。

第十二回 保賀 敏治

毎々楽しく瀬江拝見しています。小生五十年七月に二十八年間のサラリーマン生活より生保のセールスマンに転じ、第二の人生をスタートしました。きびしい仕事ですが、同窓諸兄や、元の業界、知友などの応援もあり、何とかそこそこの業績をあげ「人生到る所青山あり」と頑張っています。主として法人会の経営者向け大型保障制度を販売し、中小企業経営者の節税対策と企業防衛のご相談には二回福永・北村・佐藤。二十一年大島・岡田。二十三回宮本。十七回平石の諸氏でそれぞれ元気に活躍しております。今後とも各位のご協力をお願いします。

第十四回 逸見 豊

水戸もそろそろ十年になりますが、相変わらず大阪弁を使い関西風の食事をして暮らしています。大阪には年に二、三度帰同期の皆さんとお目にかゝることを楽しみにしています。

大阪人にとっては上野駅から東ははるかに遠い国と感じられますが、水戸も夏は涼しく、冬の寒さもさほどでもなく良いところ。東京までお出掛けの折は一時間二〇分足をのびして是非こちらまでお立寄り下さい。当方現在夫婦二人暮らしミニ同窓会が開けます。

第十四回 渡部 孝子(旧中谷)

昔、昔のこと。もう卒業して三十年余もたつてしまつたなんて本心に信じられないような気がはする。私達の入学した時学校のガラスはほとんど割れていた。冬の寒い日、陽だまりを探して冷たいお弁当を足をガタガタさせながら喰べたことは忘れられない。まもなく終戦。そして多くの友は挺身隊のがれのために入学していたのか去つて行つた。授業が始まり、よい先生方にめぐまれ本心に充実した日々であった。久野先生、梅田先生、奥村先生、石川先生のことなど今も忘れられないクラブもさかんで、私など四つのクラブ

に入り、日曜も祭日も登校した。男女共学のはしりで、社会から珍しがられ、混声コーラスでラジオに出たりした。今振り返り本当に良い学校で青春の大切な時を過ごしたことをしみじみ感謝している。

第十六回 生賀 豊

早いもので卒業以来二十九年が過ぎ、頭髮も薄くなり年齢を感じる様になりました。その間、学校へは数回、東京の支部総会にも二、三度しか出席できませんが、仕事の関係で世良大先輩にお目にかかったり、藤下兄からのお便りも目にしたたり、同期の種本、北田、松尾、村岡氏等には年賀で近況報告しあつていません。卒業と同時に日産火災勤務、大阪から十数年前に東京へ来てそのままで。日産火災も土手先輩が卒業され、小生が最年長で十数名在社していますが、全国にいて仲々一同に会する機はありません。泉南へ帰る時、新幹線から学校の建物をチラッと見て昔をなつかしくしのんでおります。

第十八回 鮫 島 圭

昭和二十七年卒業後、空調工事の高砂熱学工業(株)大阪支店に入社。昭和四十三年東京支店に転勤、昭和五十三年秋より同本社監査役として全国約五〇カ所の支店・営業所を駆け廻っている現況です。高砂熱学には、私以外に五名の卒業生が札幌、名古屋、大阪、福岡の各支店に分散勤務しておりますが、最近に入社する人がなく在籍年齢も次第に中高年化しております。

同窓会東京支部は、服部先輩を中心になごやかな雰囲気、有志のゴルフ会等を行なつたりしております。ご上京の節は是非お声をかけて下さい。

第十九回 永井 宏

前略。同窓会「瀬江」の皆様へ感謝しています。母校の発展をお祈りいたします。「大阪経済大学にはなかなか入学できない」と受験生の声聞き「今や、これから」と鼻を高くさせていただいております。

昭和五十二年同窓会、東播磨支部(兵庫県)が結成、発足し、今回は北井清之支部長(九回卒)の金物の町三木市で三回目の同窓会を開きます。会員は五百名余です。事務関係の事は加古川市米田公民館長の折井金(二十三回卒)氏が一手に引き受けていただいております。珍しいことですが加古川市議会議員として木戸昌治(二十一回卒)氏が共産党から当選三回、私は社会党から当選五回、大経大コンビで頑張っています。中村九一郎先生の門下生です。東播磨地方ご用件の節は同窓会の皆様、ご一報下さい。

第二十一回 蓮口 昭夫

ご苦労さまです。ずいぶん久しぶりにゼミや経大時代を思い出しています。きびしい状況下ですが、国民のための政治をめざして忙しい毎日です。「瀬江」を楽しみにしています。

第二十一回 蒲原 正道

卒業後二十数年たった今、異人の同窓生とも逢うこともなくただただ日々の仕事、それにかかわる仲間、家庭とあまり変化のない日々が過ぎて行きます。

経大で教育をうけたことの感謝はありながら毎年十一月に開かれる同窓会にも心ならず出席していません。できましたら年々の学校のようす(志願者卒業生の進路、施設の充実など)を知りたいものだと思っております。

第二十二回 近森 尚

一、経大卒業後二十三年。電器製品のスーパーを経営しており、長男も来春から戦列に加わる年代となった。

二、社会の第一線でがんばっているものが多いが、ある一部の同窓生しか近況が不明である。特に、在学中に硬式野球部と軽音楽(ハワイアン)に在籍して

りましたので懐かしく思う。山口県での経大同窓会は三年に一度程度開催され出席している。

三、進学(入試)がむつかしくなつたが、子供でも受験させたいが……。田舎で経大の存在を大きくするのはスポーツしかない。野球部の関六入り、サッカー、ラグビーなどを日本一のチームにする。あの大商大の今日あるのは、スポーツ振興があるからだ。問題はあがるが、指導者とい選手集めにあります。今からでも遅くない。

第二十二回 中西 達次郎

東京赴任十六年になり、毎月の本社(大阪)出張のたびに、やはり懐かしい心境にかられます。母校も新幹線から眺めるにつけ立派になって行くのを心強く、是非一度訪ねる機会を持ちたいものと思つて居ります。当社系会社(光洋精工)にも先輩諸兄が在籍され、先般、独立されて引続き、光洋製品の販売に邁進されております。東京支部の総会にはまだ出席せず失礼しておりますが、経大の諸兄とともに母校の名に恥じない言動と、与えられた職場に作品づくりに励みたいと思ひます。母校の発展を祈つてやみません。

第二十五回 柴田 茂嘉

卒業して二十年になります。商業高校に勤務していますが、近年進学者の急増でいろいろな悩みがあります。商業高校卒業生に夢をもたせる社会、誇りをもって働ける職場がほしいです。また商業高校卒業生に有名私学の経済学部系の大学に別わけて進学する道をつくってほしいです。まだまだ語学では普通高校に劣るけれど、大学で着実に努力し、優秀な社会人となる人物が多いです。経大などでぜひ教育してほしいものです。

第二十六回 榊原 孝嘉(時弘)

一、同窓生の皆様お元気にご活躍のことと存じます。さて、小生昭和三十五年

スポーツ短信

この欄での報告は本年4月以降のものですのでご注意ください。

陸上競技部 第40回関西学生対校駅伝

第三位、第10回全日本大学駅伝13位、関西学生陸上では一部5位に入賞、この大会で岡本一彦(三回生)は三千米障害で大会新を出し優勝した。

ヨット部 関西学生ヨット個人戦で総合2位となり全日出場権を獲得、関西インカレヨット選手権でも各レースに善戦総合2位に食い込んだ。全日本学生ヨット選手権では6位に終わった。

アイス・スケート部 第51回日本学生氷上競技選手権で、一部フィギュア第3位、二部フィギュアでも第3位に入賞、総合第4位となった。第34回団体冬季大会、フィギュア部門でも3位に入賞、今後の活躍が期待される。

重量挙げ同好会 西日本学生重量挙げ選手権で56kg級で盛砂(三回生)が優勝、52kg級でも米川(三回生)が5位に入賞した。全日本学連加盟が待たれる。

バドミントン部 大阪学生バドミントン選手権、男子団体で、常勝近大を敗り見事初優勝を飾った。又関西学生バドミントン春季リーグでは準優勝、西日本学生選手権でも準優勝に輝いた。

日本拳法部 第24回関西学生選手権で第4位入賞を果し、今後の活躍が期待される。

準硬式野球部 近畿六大学春季リーグで、9勝1敗で優勝。近畿大会では惜しくも準優勝に終わった。

ラグビー部 第3回大阪府大学大会で二度目の優勝を修めた。来年度の関西Aリーグ上位進出が期待される。

ハンドボール部 関西学生新人戦で部創立以来、初めての優勝を飾った。

空手道部 全関西個人選手権で、見事ベスト16入りを果たした。第17回西日本学生選手権でも、団体でベスト16入りを果たした。

柔道部 関西学生選手権でベスト8となり、全日本大会に出場一回戦では亜細亜大を破ったが、二回戦で筑波大の前に涙をのんだ。

剣道部 関西学生選手権個人で浅田(三回生)がベスト16入りを果たし、第27回全日本大会に出場した。関西女子大会では3位入賞を果したし、今後の活躍が期待される。

硬式野球部 近畿六大学春季リーグで五勝六敗で第4位となった。

硬式庭球部 春季リーグ(4部)に優勝したが、3・4部入替戦に敗れ3部入りならず。

軟式庭球部 大阪学生軟庭大学チーム対抗で、経大Aチームが久々に優勝をかついた。

サッカー部 第8回関西学生選手権予戦リーグで二勝五敗の6位に終わった。決勝トーナメントではベスト8。

卓球部 春季リーグ(一部)第5位、秋季も又第5位に終わった。

バスケットボール部 関西学生下部一次リーグで第2位、2次リーグでは二部2位となったが、エイトリーグ進出は果たせなかった。

バレーボール部 春季関西学生2部リーグで4位、西日本大会ではベスト16に止った。

アメリカンフットボール部 関西学生リーグ(一部)第6位。

ボクシング部 春季近畿学生4部リーグ第5位。

洋弓部 春季関西学生リーグ(3部)第3位、高旗(四回生)はアペレージランキングで創部以来初めて二位に入賞。

カヌー部 大阪学生選手権ジュニア、カヤックペアで優勝。総合第二位。

自転車部 関西学生サイクルサッカークラブ選手権第6位。

ゴルフ部 関西学生ゴルフ2部リーグ第5位。

競技スキー部 全関西スキー選手権で二部総合第14位。

自動車部 阪神フィギュア大会に於いて、各部で好成绩を修め総合優勝を飾った。

本学の学術総合雑誌

大阪経大論集

創刊 昭和25年 年6回刊行
年間購読料 ¥2,000円以上
お申込み先 大阪経大学会



大阪経済大学同窓会誌 NO. 15